

## 「2010県展」の概要及び審査結果について

県展は、兵庫県の芸術文化の振興に資することを目的に、県内に生活し、日頃から美術作品の制作活動に励んでいる方を対象とした公募展で1962年(昭和37年)から毎年開催されており今回で48回を数えます。

今年は、日本画、洋画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインの7部門に626点の応募があり厳正な審査の結果、「県展大賞」などの入賞作品が別添資料の入選者202名が決定しました。入選作品を展示する展覧会を下記のとおり開催します。

また、入選作品のうち入賞作品46点を展覧会終了後、県立美術館ギャラリーにおいて、再展示いたします。展覧会は、下記のとおり開催します。

### 記

#### 1 主催

兵庫県、兵庫県立美術館、神戸新聞、財団法人兵庫県芸術文化協会

#### 2 会期 8月7日(土)～8月21日(土)

休館日：毎週月曜日

開館時間：午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)

最終日の8月21日(土)は午後3時で閉展

#### 3 会場

兵庫県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」大展示室

(神戸市灘区原田通3-8-30 Tel:078-801-1591)

#### 4 観覧料

一般：300円、大院・大学生：200円、高校生：150円、中学生以下：無料

65歳以上：150円

障害者の方とその介護の方(1名)は、一般150円、大院・大学生100円

高校生70円

観覧券を20枚以上購入の場合は、一般200円、大院・大学生150円、高校生

100円

#### 5 入賞作品展

入賞作品については、兵庫県立美術館ギャラリーで再展示します。

##### (1) 会期 8月24日(火)～8月29日(日)

午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)

最終日の8月29日(日)は午後3時で閉展

##### (2) 会場 兵庫県立美術館

(神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 [HAT神戸内])

Tel:078-262-0901

##### (3) 観覧料 無料

## 6 添付資料

- ( 1 ) 2 0 1 0 県展 審査結果について
- ( 2 ) 2 0 1 0 県展 入選者・作品名リスト
- ( 3 ) 2 0 1 0 県展 講評
- ( 4 ) 2 0 1 0 県展 大賞等受賞作品 図版

日本画部門(応募点数49 入選点数16)

賞	題名	氏名	居住地
特席 県展大賞	祭りの日	金田 弘恵	神戸市垂水区
一席 部門大賞(知事賞)			
二席 兵庫県立美術館賞	雨も楽し	高田 佳弘	南あわじ市
三席 神戸新聞社賞	神木のささやき	袴田 政巳	姫路市
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	ベリーダンス	桑田 敬子	西宮市
佳作	ナツノカオリ	澤村 春菜	神戸市東灘区
佳作	聖者の門(アッシジ)	池田 瑞子	神戸市灘区
佳作	summer	野村 咲絵	播磨町
	山桜歌	齋藤 富雄	神戸市中央区
	坂越の町	村山 茂子	神戸市長田区
	干す	勝浦 茂子	赤穂市
	薔薇	猪又 智子	伊丹市
	草むら	青木 瑞穂	神戸市北区
	風戯	久保 佐栄子	神戸市兵庫区
	四季讃歌(冬)	丹羽 善二	宝塚市
	鐘の鳴る街	上山 昌代	姫路市
	スケッチ・風の宮殿	川瀬 陽子	神戸市東灘区

洋画部門(応募点数161 入選点数52)

賞	題名	氏名	居住地
一席 部門大賞(知事賞)	あおいそらにせんたくものほそう	上田 暢子	神戸市東灘区
二席 兵庫県立美術館賞	行方	寺田 明	宝塚市
三席 神戸新聞社賞	いのちの樹	大加戸 いづみ	姫路市
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	機械化	原 清	神戸市西区
佳作	山水清暉	大西 義昭	西脇市
佳作	引力 '10	三枝 典子	西宮市
佳作	鯨	原 ちとせ	丹波市
	わたしの世界	長谷川 翠	加東市
	piece and piece	井藤 美智子	神戸市東灘区
	飛天	武田 八千代	神戸市東灘区
	七夕の夜、君を待つ	藤本 典之	姫路市
	齢を重ねること	山崎 成穂	高砂市
	加古川にて	根来 英雄	高砂市
	神戸ポートアイランド風景	中江 和修	三木市
	眩ばゆい商魂	土屋 弘	大阪府大阪市
	鐵扉の語らい	岩門 継雄	姫路市
	厨房図	千崎 勝廣	赤穂市
	w.space 2010	妹背 百代	神戸市灘区
	チューリップ彩々	高田 昭子	神戸市須磨区
	木立のむこう	久保 直美	西宮市
	accumulation	小瀧 幸彦	宝塚市
	Still Life	上田 修平	神戸市兵庫区
	壁画化する風景	高井 八重子	神戸市須磨区
	刻の跡	三木 紀久子	神戸市垂水区
	未来	松島 英樹	神戸市灘区
	化石 海の記憶	岡 三千子	伊丹市
	港の風景	川崎 貴	神戸市東灘区
	太陽が目を閉じても	大橋 豊	神戸市西区
	あの向こうへ...	李 将旭	西宮市
	ベンの家	藤本 健治	神戸市東灘区
	見えない記憶の中を	宋 貴美子	神戸市東灘区
	グレイッシュな時の中で	門脇 済美	神戸市垂水区
	行き止まり	小林 優子	西宮市
	狐疑逡巡な私	天野 幸恵	姫路市
	カサレス	森 義雄	神戸市中央区
	約束	風呂本 和彦	神戸市灘区
	Palm	岩佐 盾香	尼崎市
	SERIC A_1	フロイド・ギリス	西宮市
	ダウントウンスクラブ	小松原 謙介	西脇市
	スカーフ	大前 賀代子	三田市
	酒泥棒	山本 文昭	猪名川町
	魔女のあそび	藤原 廣幸	西脇市
	晴れた日、空の下で	由利 五右衛門	神戸市灘区
	cry	高萩 典子	神戸市中央区
	ノイヌ	百々 亮人	神戸市須磨区
	どこまでもつづく	山本 粧子	神戸市西区
	waiting	橋本 伊織	神戸市灘区
	いのち	中島 彰良	三田市
	花坊～開～	川口 祥大	川西市
	雨季	高田 寛久	大阪府池田市
	壊れゆく未来	伊藤 泰行	神戸市東灘区

## 彫刻・立体部門(応募点数32 入選点数11)

賞	題名	氏名	居住地
一席 部門大賞(知事賞)	物質化する詩的言語	矢原 繁長	神戸市東灘区
二席 兵庫県立美術館賞	a、un。	宮本 明	神戸市北区
三席 神戸新聞社賞	fragile	惣田 司	尼崎市
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	体壁	吉良 幸弘	丹波市
佳作	Owl.(石の中から…あるいは石の中で…。)	久保 健史	宍粟市
佳作	The start of Life	西尾 修二	三木市
佳作	ゴルゴタの風	藤本 尚隆	西脇市
	或る風景 - 鳥の歌 -	高橋 礼子	西宮市
	深雪	小中 紗洋子	神戸市灘区
	無題	白本 洋次	神戸市中央区
	境界	奥村 誠	西宮市

工芸部門(応募点数69 入選点数22)

賞	題名	氏名	居住地
一席 部門大賞(知事賞)	手織タペストリー「静」	吉岡 洋子	西宮市
二席 兵庫県立美術館賞	ほころぶ	廣谷 育子	神戸市中央区
三席 神戸新聞社賞	素	西山 猛	芦屋市
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	fragment #06	上前 功夫	西宮市
佳作	狭間	小森谷 薫	神戸市須磨区
佳作	魂はここに置いていきます	吉宗 麻里絵	尼崎市
佳作	雨の時間	高橋 亜希	大阪府藤井寺市
	象嵌線文花器	元津 彰夫	神戸市北区
	紅組鉢	中野 年世	神戸市東灘区
	赤いさんごしょう	山家 清	姫路市
	風の舞	山本 眞由美	姫路市
	宙吹き硝子花器「花の詩」	川原 有造	上郡町
	金銀彩螺旋紋多重象嵌鉢	杉原 幸治	篠山市
	天目釉鉢	尾屋 貴文	大阪府河内長野市
	黄金の二人旅	石原 康次郎	丹波市
	紡がれた音	内田 祐哉	尼崎市
	秋恵人形	凧 節子	神戸市灘区
	恵み	石田 和江	西宮市
	緑陰	清水 幹晴	西宮市
	開	尾上 みち子	神戸市北区
	手彫りガラス(グラスリッツェン)山桜	松本 梨江	芦屋市
	壁飾り	飯塚 博子	姫路市

書部門(応募点数113 入選点数36)

賞	題名	氏名	居住地
一席 部門大賞(知事賞)	いろは歌	阪本 秋篁	芦屋市
二席 兵庫県立美術館賞	王渥詩	鬼塚 純子	西宮市
三席 神戸新聞社賞	幸	奥谷 恵	神戸市東灘区
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	恋	嶋田 治	神戸市東灘区
佳作	蘇東坡詩	中澤 翠風	姫路市
佳作	呉蘭雪詩	横手 穂歩	洲本市
佳作	天の川	島津 みゆき	たつの市
	杉谷代水の詞	吉岡 紅鸞	神戸市兵庫区
	明詩	宮崎 庭舟	神戸市西区
	唐詩	関口 花丘	尼崎市
	明詩	松田 俊浪	神戸市西区
	唐詩	税所 華翠	神戸市西区
	唐詩	下曾根 清葉	神戸市東灘区
	唐詩	前原 子芳	西宮市
	唐詩	面高 小桜	尼崎市
	明詩	庄田 愛舟	神戸市須磨区
	唐詩	新村 舟遊	西宮市
	望海楼晩景五絶	水橋 溪仙	姫路市
	櫻花	豊田 美代子	神戸市北区
	KAN	草刈 里子	西宮市
	我が恋は	吉田 由美子	神戸市西区
	吉野の里	丸山 優	姫路市
	風ある日	森岡 郁恵	姫路市
	柿紅葉	金川 元美	姫路市
	すずかぜ	萩原 文	神戸市東灘区
	KAORI	甲山 京子	小野市
	ほととぎす	伊勢 紅風	神戸市北区
	ひぐらしの	斎藤 光楸	芦屋市
	古今集 秋歌五首	小林 弘琴	神戸市長田区
	春雨に	堂脇 由美	神戸市北区
	いさり火の	谷口 千翔	神戸市長田区
	春	門口 絵美	太子町
	にじ	御厨 昭子	神戸市東灘区
	宿	幕谷 恵風	神戸市兵庫区
	和気あいあい	寺畑 瞳	神戸市灘区
	車輪	尾村 智子	神戸市灘区

写真部門(応募点数180 入選点数59)

賞	題名	氏名	居住地
一席 部門大賞(知事賞)	宙	和田 忠夫	神戸市灘区
二席 兵庫県立美術館賞	View of the sign # バランとブロッコリー	森岡 厚次	京都府京都市
三席 神戸新聞社賞	窓	西出 つや子	姫路市
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	Relation	田中 健作	尼崎市
佳作	ビルのビル	立石 勝	加古川市
佳作	眼力	山田 良子	養父市
佳作	一触即発	谷口 貴規	姫路市
	海女の日々燦々	池田末明	西宮市
	幻映	丹保美津子	神戸市北区
	灼爛	竹山和人	神戸市須磨区
	眼力	田中利昭	加東市
	遠い記憶	佐藤文彦	小野市
	フェイス	今村光政	神戸市東灘区
	食	鶴海澄子	神戸市垂水区
	果ての大地	前橋 昌子	姫路市
	漁火	井上 日出夫	加東市
	ファンタジー	関藤 有之	三木市
	あなたは何を思う	植田 祐果	明石市
	My ペット	浮田 賀子	神戸市須磨区
	みつめる	小西 博之	姫路市
	現代	石原 輝久	芦屋市
	熱演	山下 和也	大阪府四條畷市
	悠久の時	岡田 茂	神戸市北区
	夕暮れの海岸通り	大國 由紀子	明石市
	dance	西川 福子	神戸市中央区
	鍛える	松林 義明	西宮市
	いつか来た道	木原 道也	神戸市北区
	ダメージ	北川 喜則	神戸市垂水区
	Lips	西尾 日出海	加古川市
	輪廻転生	南 秀人	神戸市灘区
	空中整列	津川 宣子	神戸市灘区
	精霊宿る	河津 勇三	たつの市
	Daydream(そら)	三井 博	西宮市
	春郷愁	松田 正康	神戸市北区
	水中捕獲	大熊 勲	加東市
	梅おぼろ	岡林 公子	神戸市垂水区
	里仏	池田 重信	神戸市須磨区
	和みの里	佐野 正章	神戸市北区
	抱擁	佐々木 健二	西宮市
	我ら地球仲間	大西 勲	三田市
	田植え	王 世奇	神戸市中央区
	ひな飾り	金井 和子	神戸市中央区
	艶	野村 賢二	明石市
	神戸旧居留地	飯塚 富郎	宝塚市
	風船遊び	小川 かよ子	神戸市中央区
	夏の朝	森本 孝義	尼崎市
	光景	藤原 隆彦	尼崎市
	光景	仲島 久美子	神戸市垂水区
	幽壁の灯	来住 禎之	西脇市
	吾輩の家である	谷村 周慈	洲本市
	クジャクサボテンの花	島津 貴充	宝塚市
	憔悴に生る	塚本 正光	芦屋市



夢に向って  
漁村寸景  
変幻夢想  
ツーショット  
光芒  
みついちご  
白の板塀

佐治 はるみ  
楠 民代  
尾崎 寿  
廣岡 卓樹  
東芝 照夫  
市川 みつ子  
矢追 秀泰

宝塚市  
三木市  
市川町  
淡路市  
宝塚市  
神戸市灘区  
尼崎市

デザイン部門(応募点数22 入選点数6)

賞	題名	氏名	居住地
二席 兵庫県立美術館賞	月と蠅	石川 重工	高砂市
三席 神戸新聞社賞	Korean Mask 酔癡・小巫・老長	姜 孝薇	尼崎市
四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞	明日の光	兵藤 正史	尼崎市
佳作	IN SEARCH OF LOST TIME	齊藤 啓太	神戸市垂水区
	Football Quotes	蔡本 英賛	神戸市長田区
	Let's カーニバル!	牛尾 聡志	姫路市

2010県展 審査結果について

兵庫県立美術館

1 概要

2010県展は、7部門626点の応募があり、入選点数は202点となった。(詳細は、「3 応募状況等一覧」のとおり)

特席(県展大賞)は、日本画部門、金田弘恵氏の「祭りの日」に決定した。

各部門の入選者は、別添資料の入選者リストのとおりである。

2 特徴

全体では、応募者が昨年度の7.5%減となったが、彫刻・立体部門において、約40%の増加となった。

彫刻・立体部門は、全出品作品に占める割合は、5.1%と低いが、講評にもあるとおり審査にあたっては、レベルが高く激戦となった。

各年齢区分における入賞率(当該年齢区分入賞者/当該年齢区分応募者)は、50代60代が約6%だったのに対し、20代30代は15%であった。

3 応募状況等一覧

(1) 応募及び入選作品数一覧

部門	応募点数				入選点数		左のうち入賞点数					
	本年度 応募点数	昨年度 増減数	昨年度 比%	本年出品 全体に 占める 割合(%)	本年度	%	特席	一席	二席	三席	四席	佳作
日本画	49	4	92.5%	7.8	16	32.7	1	1	1	1	1	3
洋画	161	22	88.0%	25.7	52	32.3		1	1	1	1	3
彫刻・立体	32	9	139.1%	5.1	11	34.4		1	1	1	1	3
工芸	69	13	84.1%	11	22	31.9		1	1	1	1	3
書	113	5	104.6%	18.1	36	31.9		1	1	1	1	3
写真	180	24	88.2%	28.8	59	32.8		1	1	1	1	3
デザイン	22	2	91.7%	3.5	6	27.3			1	1	1	1
計	626	51	92.5%	100	202	32.3	1	6	7	7	7	19

47 <46>

昨年677点  
 特席 県展大賞 副賞50万円 部門大賞(知事賞)の中から1名  
 一席 部門大賞(知事賞) 副賞10万円  
 二席 兵庫県立美術館賞 副賞7万円  
 三席 神戸新聞社賞 副賞記念品  
 四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞 副賞記念品  
 佳作  
 特別賞 県民賞(来場者の投票により全部門を通じて1名) 副賞記念品

(2) 年齢・男女別応募者数一覧

部門	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明		計	
	2010年	2009年比	2010年	2009年比	2010年	2009年比	2010年	2009年比	2010年	2009年比	2010年	2009年比	2010年	2009年比	2010年	2009年比
日本画	1(0)	1(0)	5(4)	-1(-2)	5(4)	2(1)	7(5)	6(4)	3(3)	-2(-2)	28(20)	-10(-12)	0(0)	0(0)	49(36)	-4(-11)
洋画	4(3)	-1(-1)	24(8)	-4(-8)	7(3)	-3(-2)	16(11)	2(4)	31(22)	-7(-1)	79(36)	-9(-9)	0(0)	0(0)	161(83)	-22(-17)
彫刻・立体	2(2)	-1(1)	8(7)	4(4)	9(3)	6(3)	1(0)	0(0)	6(2)	0(0)	6(2)	0(0)	0(0)	0(0)	32(16)	9(8)
工芸	0(0)	0(0)	7(4)	-2(-3)	6(2)	-1(-2)	6(5)	-2(2)	12(11)	-2(1)	38(17)	-6(2)	0(0)	0(0)	69(39)	-13(0)
書	2(2)	-5(-2)	9(8)	-4(-3)	9(8)	-2(-2)	16(16)	-6(-6)	31(29)	7(6)	46(38)	16(15)	0(0)	-1(-1)	113(101)	5(7)
写真	2(2)	1(2)	2(0)	0(-2)	4(2)	0(0)	9(2)	1(1)	21(5)	-1(-4)	142(34)	-24(-6)	0(0)	-1(-1)	180(45)	-24(-10)
デザイン	1(1)	-3(-3)	6(2)	-1(-1)	6(1)	5(0)	3(3)	-2(-2)	5(3)	2(2)	1(0)	-3(-1)	0(0)	0(0)	22(10)	-2(-5)
計	12(10)	-8(-3)	61(33)	-8(-15)	46(23)	7(-2)	58(42)	-1(3)	109(75)	-3(2)	340(147)	-36(-11)	0(0)	-2(-2)	626(330)	-51(-28)
%	1.9(1.6)		9.7(5.3)		7.3(3.7)		9.3(6.7)		17.4(12)		54.3(23.5)		0(0)		100(52.9)	

( )内は女性の内数

(3) 受付日別出品人数

	1日目	2日目	合計
一般	397	180	577
学生	25	24	49
計	422	204	626

(4) 地域別応募者数一覧

部門	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	その他	計
日本画	17	5	7	5	3	5	6	0	0	1	0	49
洋画	75	17	18	16	10	9	4	0	5	2	5	161
彫刻・立体	16	6	1	1	2	0	2	1	1	0	2	32
工芸	22	17	5	8	1	8	2	0	3	0	3	69
書	50	10	6	14	4	16	12	0	0	1	0	113
写真	70	21	13	24	17	19	6	2	3	4	1	180
デザイン	10	4	3	3	1	1	0	0	0	0	0	22
計	260	80	53	71	38	58	32	3	12	8	11	626
%	41.5	12.8	8.5	11.3	6.1	9.3	5.1	0.5	1.9	1.3	1.8	100

1 日本画部門

【総評】

作年に比べて人物画が少なかった。また、大作も少ない傾向にあった。その一方で、今年は多彩な作品が出品されており、色使いがシャープな作品や華やかな作品、情緒的な作品など多様に変化に富んでいた。全体的にかなりレベルが高く、審査時にも票が割れた。選外の作品の中にも良い作品がたくさんあった。技術力(=かたち)だけの作品より、メッセージ(=中身)を表現する作品、つまり、気持ちを感じられる作品を描いて欲しい。

【一席 大賞(知事賞)】 金田弘恵 《祭りの日》

色彩の強さ、華やかさがバランス良く見る者にアピールしてくる。エキゾチックな画題が、異国の文化に触れる楽しさを感じさせてくれる。背景が明るいので、人物の肌の色をもっと美しく見えるように工夫するとより魅力的になるだろう。人物の腕や肩の表現が硬いので、柔らかさがあればと思うが、子ども達の表情が真剣で表現が的確。全体的に気品がある作品と言えるだろう。

【二席 兵庫県立美術館賞】 高田佳弘 《雨も楽し》

情緒的で見る者を引きつける詩情豊かな作品である。昔見た風景のような懐かしさを感じさせる。素直に気持ち良く入ってくる作品である。ゆったりとした癒しのようなものを感じられる。家の遠近法が微妙に狂っているが、そこに家があるから一つのストーリーが完結しており、文学的な点も評価できる。変に巧まず、表現が素直であるところに好感を持てる作品である。

【三席 神戸新聞社賞】 袴田政巳 《神木のささやき》

力が入っていて、絵具のことも良くご存知である。正攻法で熱い気持ちを込めて塗っていて、ご神木の霊気を表現している。上部に箔を使っているが、わざと箔足を残してマチエールを出し、力強さを表現している。画面全体からオーラを感じる作品である。

【四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞】 桑田敬子 《ベリーダンス》

色彩の華やかさと構成が良い。上部は単純、下部は複雑な表現で、荒削りな魅力がある。配色もよく考えられている。赤と緑という補色を用いよく計算されている。下部をぶれたように表現し、ダンスの動きを感じさせている。美しい足の曲線をもっと出せば、艶かしいベリーダンスの動きがもっと良く出てくるだろう。非常に若い感性を感じさせる作品で、今年作品の中では異色といえる。

2 洋画部門

【概評】

(岸野) 去年は写生的な具象が目についたが、今年はオーソドックスではあるが、心象的、抽象的な作品が増えた。また、生活臭のある、生活の中から出てきたものが感じられる作品が増えた。密度が濃く、レベルが高いが、飛び抜けたものがない。

(岸本) 抽象画、具象画ともに完成度は高い。抽象画、具象画ともに幅の広さも感じられる。抽象画は作り込んだものが多いかと思っただけ、おおらかである。当初、予想していたようなこぶりのものがあまりなく、100号の力作もあり、密度の高いものがある。

(赤松) 力作揃い。それぞれ力を込めて描いている。選出の際は、作者の視点、思い、モチーフへの愛情を重視した。リアリティやストーリーのあるものが魅力的である。時代を感じさせるモチーフを意識して描いている。抽象画も達者で、絵の具の使い方、構図などに長年の蓄積を感じる。

【一席 部門大賞】 上田暢子 《あおいそらにせんたくものほそう》

(岸本) 一番か二番目くらい目にとまった。作者は若い人かと思っただけ、新鮮さがある。絵具の中心的な密度からはずれた、今っぽさがある。感覚的でありながら、作り込まれている。ユニークで、コラージュ的要素があり、面白い。

(岸野) ためらいがない。素直過ぎて、楽しい。包装紙、プラスチックの段ボールなど、身近な素材を使っており、日常詩である。こういうのがあっていい。ほかになく、目立った。

(赤松) アイデアが目についた。ちぎり紙など、達者である。細かなところにまで見る側が入っていける。簡単に済ませていない。時間を掛けて楽しみながら作っているのは。チープな素材で、剥がれなど、荒っぽいところもあるが、側面などは細かい。

【二席 兵庫県立美術館賞】 寺田明 《行方》

(赤松) 達者で、隅々まで行き届いている。絵の具の使い方、感覚が活かされている。ただし、新鮮さで大賞を逃した。

(岸本) 抽象画で目にとまった。荒いところもあるが、目を引きつける。グレイとアレンジは合うようで合わないのがよい。熟練していて、ドローイングの魅力がある。矩形の中の矩形は動きが止まりがちなのを、うまくやっている。あきない。

(岸野) 単調の中に、経験値の深さが感じられる。必要最低限で、仕事を終えられている。単純素朴、説明的だが、絵画らしい絵画でもある。

【三席 神戸新聞社賞】 大加戸いづみ 《いのちの樹》

(岸野) 近代絵画の表現主義的傾向の作品。何人かの作家を思い出させるところがあるが、詩情、ファンタジー、物語性など、いろいろな要素がからみながら、うまくできている。もう少し整理し、空間に拡がりがあれば・・・。

(岸本) イメージをうまくつかんでいる。イメージを誘発させる。若干古風で、色が過剰だが、いろいろな要素をひとつの画面に集約し、具象の中では目についた作品。

(赤松) 映像が先あって作っていくのが多い今日の美術の中で、画面に色を乗せて、思考していくタイプである。いろいろなものをちりばめながら、組み合わせさせている。

【四席 (財) 兵庫県芸術文化協会賞】 原清 《機械化》

(赤松)モチーフを素直に描いている。観察力、愛情があり、時間を掛けて描いている。モチーフへの視線がいい。作品の前を通るたび、目にとまって、惹かれた。

(岸野)少ない色数で、明快な画面構成。古めかしい機械であり、現代に対する批判だろうか？

(岸本)太い線で、無骨、限られた色調などで、不思議な存在感がある。最初、目に止まらなかったが、じわじわと目の端に引っかかってきた。モチーフ選びや手法など、強い絵である。

### 3 彫刻・立体部門

#### 【総評】

今年は応募総数が増え、またレベルも高く、激戦となった。落選作にも力作が多く、厳しい審査となった。傾向としては、(1)人間を追求してゆく作品、(2)今日の社会を反映している作品、(3)造形を追求した作品の3つの流れが感じられた。

#### 【一席 部門大賞(知事賞)】 矢原繁長 《物質化する詩的言語》

木や鉄の中に人間が参加する発想がユニーク。いろいろな職種の方を巻きこむ、強引なまでのエネルギーがある。上手いとかということより、人とコミュニケーションする装置として、そのエネルギーに魅力が感じられる作品。造形もあらっばいように見えて、実はいねいに作られている。

#### 【二席 兵庫県立美術館賞】 宮本明 《a, un.》

現代の「あ・うん」。現代社会における青年の悩みや不安を見つめ、表現する真摯さの感じられる作品。微妙な顔のかたむき、一瞬の表情がしっかりとらえられている。我々は表面的なものにしか関心がないが、より精神的、内面的なものを見つめようとした作品と解釈したい。

#### 【三席 神戸新聞社賞】 惣田司 《fragile》

技術的に優れた作品。素材の持ち味も生かされている。虚(マイナス)の空間づくりと、それが増殖してゆくような複雑な構成が魅力的である。ただし構成的な面では、もう少し研究の余地もありそうだ。

#### 【四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞】 吉良幸弘 《体壁》

安定感あるポーズで女性をとらえた、重量感あふれる作品。肉感的な女性の存在がしっかりとしたボリューム感で表されており、表現力の確かさを感じる。まっすぐに対象に向かう姿勢が、作品にあらわれている。表面の色はもう少しさわやかなものでも良かったかもしれない。

#### 4 工芸部門

##### 【概評】

(市野)陶芸は、デザイン重視で、形が弱い。コンセプトがあって、技術的にクオリティの高いものを選んだ。やりすぎか、一步足りないものがある。

(井関)染色は、2点の賞作品の優劣がつけがたかった。陶芸は、技術的に未熟なところを感じる。

(弓場)器の型にはまらない。デザインばかりに走って、骨組みが弱い。オーソドックスでなくて、展覧会用のものが多い。どこの展覧会でも似たり寄ったりのものをよく見る。今は、情報が氾濫していて、流行に目が向いてしまい、日常自分が感じるものを表現してほしい。

##### 【一席 部門大賞】 吉岡洋子 《手織タペストリー「静」》

難しい仕事をこなしている。繊細。展示、とくにライトを工夫して、バックをよく考えて、すけるような感じを出してほしい。佳作の織物も互角。両方藍染めで、織りの技術が高い。

##### 【二席 兵庫県立美術館賞】 廣谷育子 《ほころぶ》

漆でしか出せない滑らかさである。漆の技術も高い。形も美しい。

##### 【三席 神戸新聞社賞】 西山猛 《素》

これは器ではない。新しい価値観を出している。陶芸というよりも工芸というべき。技術的には、いぶし瓦のいぶし焼きである。ふたをつけたのが成功している。ふたがなかったら、目線が内側に向かって、間が抜けてしまう。

##### 【四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞】 上前功夫 《fragment #06》

骨のような形のもつ面白さがある。ガラスで無機質のものを表現している。ガラスでしかない表現である。



5 書部門

【総評】

応募点数が少し増え、大作が多かった。力作ぞろいで、入落を決めかねるほどであった。篆刻がなかったのが残念であり、今後、応募を期待する。全体にレベルが高いが、出品者が高齢化しており、若い人にももっと出品してほしい。漢字作品については激戦であり、入選のレベルに達するのには年数がかかることであろう。かな作品も毎年レベルがあがっており、様々な種類のものが出品されたが、中央展に出してもさしつかえない力作が多かった。前衛作品は、テクニック、センスは優れているが、こぎれいな作品が多いのが気になった。爆発力のある作品を期待する。

【一席 部門大賞(知事賞)】 阪本秋篁 《いろは歌》

大胆な筆づかいによってダイナミックな動きのある作品になっている。用筆のテクニックも備えている。

【二席 兵庫県立美術館賞】 鬼塚純子 《王渥詩》

古典を下敷きにした作品。濃淡の表現もよく、潤滑もきいている。作品自体が立体感を感じさせる。

【三席 神戸新聞社賞】 奥谷恵 《幸》

線によって攻めていった作品であり、テクニックがある。紙面全体を使って白の空間をうまく利用している。

【四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞】 嶋田治 《恋》

線の魅力とともにデザイン的な動きのある作品。太い線と細い線がバランスよく、全体的に音楽的なリズムを感じさせる。

6 写真部門

【総評】

全体として平均的な出来。デジタル写真のレベルは上がってきているように思われる。写真は誰にでも撮れるもので、その部分が近年は評価されがちであるが、そこからさらに踏み込んで、何を表現できるのかといった部分にまでたどり着いてほしい。その中で何か「表現」されていると感じられる作品が今回は入賞した。

【一席 部門大賞（知事賞）】 和田忠夫 《宙》

赤信号をモチーフにした作品であるが、デザイン的にも形の上からも非常に美しい。写真という技法を用いてもこのような表現が可能であることが伝わってくる。

【二席 兵庫県立美術館賞】 森岡厚次 《View of the sign # バランとブロッコリー》

ありふれた光景をとらえた作品のようでありながら、見た瞬間「何だこれは？」と思わせる不思議さを感じられる作品。そこに魅力を感じさせる。

【三席 神戸新聞社賞】 西出つや子 《窓》

建物と建物の間から見える街並みが、まるでピサの斜塔のように立体的に見えるようすがおもしろい。少し斜めに傾いた視点もユニークだ。陰陽の逆転が効果的な作品。

【四席（財）兵庫県芸術文化協会賞】 田中健作 《Relation》

近頃話題の口蹄疫のモチーフを率直にあらわしている。話題性をとらえつつ、社会を見つめる自分を表現しているところが良い。技術的なことを考えずとも見る側にきちんと飛び込んでくる。

## 7 デザイン部門

### 【総評】

作品数が少なく選ぶのに困った。一言で言えば地味でエネルギー不足だといえる。デザインは難しい分野で、他の分野に入らない作品をこちらに出品されたという感じがした。何をどのように伝えるかという点を重視して欲しい。出品数が増えれば良い作品も増えるので来年に期待している。とはいえ、その中でもクオリティの高い心に響く作品はあった。最終的に残った作品はオリジナリティがある作品といえる。コンピューターを用いた作品等、時代を映す新たな表現が見られ、今後一層期待される。新たな表現にどんどん挑戦して欲しい。

### 【一席 大賞（知事賞）】 該当なし

### 【二席 兵庫県立美術館賞】 石川重工 《月と蠅》

自分の世界観を追求してディテールにまでこだわってよく表現されている。今までの積み重ねが見える作品で、更に大型に作り込んでいっても、その世界観が成立するであろうしっかりとした造形を持っている。デザインというより、立体イラストと捉えられる部分はあるが、更なる可能性を秘めた作品といえる。

### 【三席 神戸新聞社賞】 姜孝薇 《Korean Mask 酔癡・小巫・老長》

オリジナリティがあり、きちんと作り込まれている。普通なら平面にイラストレーションという手法を採るだろうが、木の切り口をそのまま使い、木の形と一体化させている部分が面白い。イラスト自体にも独自性があり、単体で見ても評価できるものがある。

### 【四席（財）兵庫県芸術文化協会賞】 兵藤正史 《明日の光》

色彩も美しく全てのバランスが取れており、一目見て楽しさが伝わってくる。オリジナリティという点では、それほど抜きん出ているわけではないが、優れたテイストを持っている。人を引きつける素直さを感じさせる。

2010 県展 特席 県展大賞 受賞作品



金田 弘恵 《祭りの日》

## 2010 県展 一席 部門大賞（知事賞）受賞作品

日本画



金田弘恵《祭りの日》

洋画



上田暢子

《あおいそらにせんたくものほそう》

彫刻・立体



矢原繁長《物質化する詩的言語》

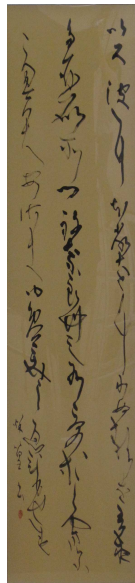
工芸



吉岡洋子

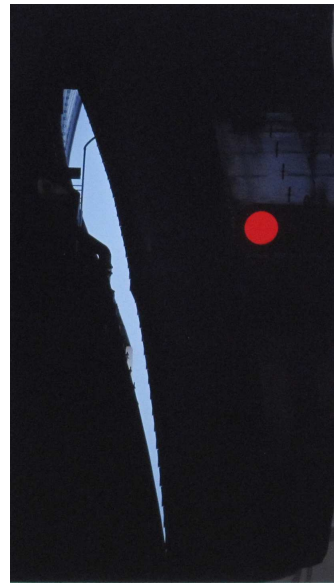
《手織タペストリー「静」》

書



阪本秋篁《いろは歌》

写真



和田忠夫《宙》

※デザイン部門は該当者なし